

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十八年
九月

この大きな時代の日本の母

戦局はいよいよはげしくなつて來ます。南の島々に日夜に響く爆音砲聲は、こうしてあても耳に響いて來ます。北の警戒の緊張もひしひしと身近かに迫つて來ます。廣い大陸に擴がる討撃の足音は、そのまゝ海を渡つて地響きを傳へて來ます。更にその間に、ヨーロッパの激しい激動が、すぐにも頭の上の大雨ともなりかねない遠くの大雷鳴のやうに、胸を驚かさずにあまません。世界の歴史の中で、こんな激げしい戦争があつたでせうか。わが日本にこんな大きな時代があつたでせうか。世界の戦亂の中にあるといへば、わが國は此上どんなに強き攻撃を受けるかも知れません。自ら世界を動かしてゐるといへば、之れかた尙、どんな大きな役目にわが國が進んでゆかなければならぬか分りません。何にしても、お互は、日本人として、今までに類例のない一番大きな力の必要な時に生れてゐるのです。男でも女でも、だれ一人として、戦前の、あたりまへの力の出し方、力の入れ方であつてもはなりません。

みなさんは、その中で、母として、一ばいの力を要求せられて居り、又、現にそれを出しめられるのです。實に、この大きな時代の日本の母として、力一ばいに生きてゐられるのです。いつもの、たゞの母ではありません。

幼稚園から

○この夏を、お子さん達は、銘々の家庭で、どんなによく鍛へられたことであらう。それららくく海へゆき、らくく山へゆく時ではありませんでした。お母さんの特別の御工夫と御苦心とで、戦時生活の中で家庭錬成をせられたのです。

○そのお子さんを再び迎へて、幼稚園もうんと、しつかりしなくては相済みません。折角く、いゝ健康な夏の子であつたお子さん達を、弱い秋の子にしつたりしてはなりません。うんとしつかりやりますぞ。

○幼稚園は家庭教育を補ふところだと言はれてゐます。しかも、その補ふといふのは、足りないところを補ふといふだけではありません。家庭がしつかりよくやつておいでになるどころを、その上をなと補つてゆくことでもあります。

○秋、いゝ秋の保育は、この積極性で幼稚園をはり切らせてゐます。